

### 3-3.環境調査(鳥類)中間報告

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 調査内容:平成27(2015)年度～令和4(2022)年度

対象	調査方法	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (R1) (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
鳥類相全般	文献調査	既往文献	—	—	—	—	—	—	—	
	聞き取り調査	鳥類全般: 藤巻裕蔵氏 シマフクロウ: 早矢仕有子氏 本田優子氏	懇談会実施							
	スポット センサス	—	現道沿い ・約5.3km 3回(6・10・2月 各月2日)	現道沿い ・約5.3km 2回(4・5月 各月2日)	—	—	計画路線沿い ・約4.4.km 1回(6月 2日)	—	—	
			H28・H29で1セット							
特定種 (クマゲラ・ 希少猛禽類)	定点調査 (終日調査)	—	現道沿い ・3地点2回 (6・10月 各月2日)	現道沿い ・3地点2回 (4・5月 各月2日)	現道沿い ・3地点 4回(4・5・6・9月 各月3日)	現道沿い ・3地点 8回(4～11月 各月1日)	現道沿い・3地点※1 8回(4～6・9月 各 月2日、7・8・10・11 月各月1日)	現道沿い・3地点※1 8回(4～6・9月 各月 2日、7・8・10・11月 各月1日)	現道沿い・3地点※1 8回(4～6・9月 各月 2日、7・8・10・11月 各月1日)※2	
			H28・H29で1セット							
特定種 (シマフクロウ)	定点調査 (夜間調査)	—	現道沿い・4地点 3回(6・10・2月 各 月3日)	現道沿い ・4地点 1回(6月 各3日)	—	—	—	—	現道沿い ・4地点・2回(4・5月) ・各月2日)	
特定種 (シマフクロウ)	痕跡調査	—	水域沿い 2回(6・7月)	—	—	—	—	—	—	
特定種 (クマゲラ・ 希少猛禽類・ シマフクロウ)	営巣木 調査	—	計画路線沿い ・約4.4.km 1回(11月)	—	—	計画路線沿い ・約4.4.km 1回(11月)	—	—	St.夜-4周辺 ・1回(5月)	
特定種 (クマタカ)	営巣木 調査	—	—	—	—	—	St.3周辺 ・1回(11月)	—	—	
特定種 (タンチョウ)	タンチョウ 営巣調査	—	—	—	—	—	—	SP2500北側の湿地 ・1回(5月)	補足調査	

※1: St.2・St.3では、調査中に補足調査地点 (SP1860・SP2410) に移動し、午前中2時間程度の調査を実施

※2: 終日調査実施時に、R3年度調査で営巣が確認された、タンチョウの補足確認を実施した。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

令和4年度全体調査結果(4～10月調査実施時点)

- 本調査によって確認された鳥類は10目25科65種であった。
- 重要種としてエゾライチョウ、タンチョウ、ヤマシギ、オオジシギ、オジロワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、クマタカ、オオコノハズク、シマフクロウ、アオバズク、オオアカゲラ、クマゲラの6目6科14種を確認した。
- 本年度新規確認種はオオコノハズク、シマフクロウ、アオバズクの1目1科3種であった。

表 鳥類調査による確認種(1/3)

No.	目名	科名	種名	学名	R4新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>				DD	Nt	留鳥	森林
2	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>						夏鳥	森林・人里
3			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>						夏鳥	森林
4	ツル目	ツル科	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>		特天	国内	VU	Vu	留鳥	水辺・草原
5	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>						夏鳥	森林
6			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>						夏鳥	森林
7	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>						夏鳥	森林
8			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>						夏鳥	海域
9	チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>					N	夏鳥	森林
10			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>				NT	Nt	夏鳥	草原
11	タカ目	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>						留鳥	水辺・人里
12			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>		国内	国内	VU	Vu	留鳥	水辺
13			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>					Dd	夏(留)鳥	森林
14			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>				NT	Nt	夏(留)鳥	森林
15			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>				NT	Nt	留(夏)鳥	森林
16			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>						留鳥	森林
17			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>			国内	EN	En	留鳥	森林
18	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	●				Nt	留鳥	人里
19			シマフクロウ	<i>Ketupa blakistoni</i>	●	国天	国内	CR	Cr	留鳥	森林
20			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	●				Dd	夏鳥	森林
21	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>						留鳥	森林
22			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>					Dd	留鳥	森林

※  :重要種 ※ ●:確認種

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

表 鳥類調査による確認種(2/3)

No.	目名	科名	種名	学名	R4新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
23	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>						留鳥	森林
			アカゲラ属	<i>Dendrocopos sp.</i>						-	-
24			クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>		国天		VU	Vu	留鳥	森林
25			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>						留鳥	森林
26	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>						夏鳥	森林
27		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>						留鳥	森林
28			ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>						留鳥	森林
29			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>						留鳥	人里
30			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>						留鳥	森林・人里
			カラス属	<i>Corvus sp.</i>						-	-
31		キクイタダキ科	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>						留鳥	森林
32		シジュウカラ科	ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>						留鳥	森林
33			コガラ	<i>Poecile montanus</i>						留鳥	森林
34			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>						留鳥	森林
35			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>						留鳥	森林・人里
36		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>						留鳥	森林・人里
37		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>						夏鳥	森林
38		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>						留鳥	森林
39		ムシクイ科	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>						夏鳥	森林
40			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>						夏鳥	森林
41		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>						留鳥	森林
42		キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>						留鳥	森林
43		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>						留鳥	森林
44		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>						留鳥	水辺
45		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>						夏鳥	森林
46			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>						夏鳥	森林
47			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>						夏鳥	森林
48			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>						夏鳥	森林
49			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>						夏鳥	森林
50			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>						夏鳥	草原
51			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>						夏鳥	森林

※   : 重要種    ※   : 科または属までの同定にとどまっており、種数の計数から除外した種。

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

表 鳥類調査による確認種(3/3)

No.	目名	科名	種名	学名	R4新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
52	スズメ目	ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>						夏鳥	森林
53			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>						夏鳥	森林
54		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>						夏鳥	水辺
55			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>						夏(留)鳥	水辺・人里
56		セキレイ科	ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>						夏鳥	森林・草原
57		アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>						冬鳥	森林
58			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>						夏鳥	草原・森林・人里
59			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>						留鳥	森林
60			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>						夏鳥	森林・草原
61			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>						留鳥	森林
62			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>						夏(留)鳥	森林
63			イカル	<i>Eophona personata</i>						夏鳥	森林
64		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>						夏鳥	草原
65			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>						夏鳥	草原・森林・人里
合計	10目	25科	65種	確認種数	3種	4種	4種	9種	13種	-	-





令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

## 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

### タンチョウ補足調査結果

- 4月21日の補足調査で就巢を確認
- 5・6月で幼鳥2羽を確認
- 7月以降の幼鳥確認はなし。幼鳥死亡などによる繁殖失敗と考えられる。

区分	調査日	確認個体数		調査結果概要
		成鳥	幼鳥	
補足調査 (終日調査時)	4月21・22日	2個体	－	・成鳥1個体の就巢を確認
	5月24・25日	2個体	2個体	・成鳥、幼鳥ともに採餌しているのを確認 (5/25)
	6月21日	2個体	2個体	・成鳥、幼鳥ともに採餌しているのを確認
	7月13日	－	－	・成鳥、幼鳥とも個体確認なし
	8月19日	2個体	－	・成鳥の採餌及び鳴き交わしを確認
	9月13・14日	2個体	－	・成鳥の採餌を確認
	10月15日	2個体	－	・成鳥の採餌を確認
	11月15日	次回WSで報告		

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 今後の予定

### ➤ 終日調査:11月(1日)

調査年度	調査方法	延べ日数		確認種数		クマゲラ 確認例数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
R4	終日	12日	20日	(H28~R3 総確認種数 92種)				2日	2日	2日	1日	1日	2日	1日	1日									
	夜間	6日						2日	2日															2日
	営巣可能木	2日						2日																
R3	終日	12日	13日	73種	74種	56例	56例	2日	2日	2日	1日	1日	2日	1日	1日									
	夕ヨウ営巣	1日		1種		0例			1日															
R2	終日	12日	16日	64種	66種	36例	44例	2日	2日	2日	1日	1日	2日	1日	1日									
	スポットセンサス	2日		44種		5例																		
	営巣木	2日		5種		3例												2日						
H31 (R1)	終日	8日	10日	57種	57種	18例	19例	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日									
	営巣木	2日		4種		1例												2日						
H30	終日	12日		64種		45例		3日	3日	3日			3日											
H29	終日	4日		58種		14例		2日	2日															
	スポットセンサス	4日		44種		4例		2日	2日															
	夜間	3日		24種		0例				3日														
H28	終日	4日	37日	51種	76種 夜間などその 他調査含む	9例	36例			2日				2日										
	スポットセンサス	6日		47種		4例						2日									2日			
	夜間	9日		31種		2例						3日				3日					3日			
	痕跡 (シマフクロウ)	5日		0種		0例						3日	2日											
	営巣木	2日		4種		3例												2日						



令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

#### 4. オンネット一地区道路環境保全会議について

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 1. 第1回 オンネトー地区道路環境保全会議 開催

日時：令和4年6月14日（火） 11：00～ 会議：足寄町役場 1階会議室  
14：00～ 現地視察：オンネトー計画路線周辺



保全会議の様子



外来種駆除の様子

### 参加団体（R4.5 現在）

- 雌阿寒自然塾  
足寄山友会  
NPO法人 あしよろ観光協会
- 帯広ウチダザリガニ・バスターズ
- 川と河畔林を考える会
- 日本野鳥の会十勝支部  
浦幌野鳥倶楽部  
NPO法人 十勝多自然ネット
- 十勝川中流部市民協働会議
- 足寄町

※ ○は当日の参加団体

### 事務局

北海道十勝総合振興局 帯広建設管理部

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 2. 議事内容

・保全会議と経過報告の説明後、規約(案)について、第1回準備会(R3/7/27)で出された意見に基づき修正

規約修正箇所	対応(赤字が修正箇所)
第5条(会議の構成メンバー)	1)「WSに参加している団体・個人」→ 1)「WSに参加している団体・個人の内、参加を希望するもの」に修正
	3)「環境省、足寄町」 → 3)「 <b>足寄町</b> 」に修正
第7条(事務局)	「北海道十勝総合振興局帯広建設管理部」→ 「北海道十勝総合振興局帯広建設管理部 <b>事業課</b> 」に修正
第12条(施行)	「令和3年7月1日」→ 「 <b>令和4年6月14日</b> 」に修正

・今後の予定

項目	時期	内容
外来種生育状況確認	8月～10月	道路予定地周辺の外来種生育状況を確認し、今後の外来種対応について検討する
自然観察会開催	8月～10月	植物(外来種)に関する勉強会の開催を検討する
学校連携		岩原代表より情報提供
その他		・次回会議は11月～12月に学習会、令和5年度活動予定(案)の策定を含めて開催予定

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 3. 質疑応答

学校連携・防災・アメリカオニアザミ駆除について質問意見が出された。

### 学校連携

- ・足寄高校からの提案は、当会のリーフレットを作って学校に置かせてもらい、関心のある子は参加する。螺湾小学校は、カリキュラムの点と子供が一人で参加するのは厳しい。いずれにしても 安全できちんとできる体制づくりをしないといけない。
- ・具体的な人へアプローチし、教員を一人つけ、足を含めてやってくれる人が一人いれば実際可能になっていくのでは、あと一步踏み込んでみてはどうか。

### 防災

- ・避難道路地域の地質、雌阿寒岳の地質、ハザードマップなどについて、現場を見ながら学べる機会があれば良い。
- ・色んな知見の方がおられるので、今後とも検討する中で一緒に進めていければ。

### アメリカオニアザミ駆除

- ・アメリカオニアザミの駆除試験について今現在どうなっているのか。また、今後そこを見に行き検討する予定か。
- ・花をつける前に刈り取ると再生し、花がついてから刈り取れば枯れるという事が判った。今年度、環境調査の中で継続して調査中で、引き続き状況を見ながらWS、保全会議で報告する形にしたい。

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 4. 現地試験・視察

1. 計画路線沿いにおける  
外来種駆除に向け、オオハ  
ンゴンソウの駆除試験を  
行った。

①掘取り状況



②抜き取り状況



③刈取り状況



分別状況(根の部分を持ってゴミ袋へ)



2. 道路計画の植生検討のため、  
国立公園内の植生を視察した。

切土部 確認状況



盛土部 確認状況



今後の駆除方法については岡村先生からの助言を受け検討中

## 5.道路法面植生工法について

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

法面植生(外来種対応)の経緯

H28(2016)～  
環境調査(植物含む)の実施

H29(2017)  
第2回WSで外来種侵入対策について  
持田構成員から指摘

H30(2018)～ 外来種生育状況調査

H30(2018) 11月 岡村北海道科学大学名誉教授から外来種植物対応についての助言

- ①侵略性が高い種に注意
- ②外来種は調査時に抜く
- ③在来種は待受、播種
- ④クサヨシ導入時は他種と混ぜる
- ⑤緑化候補種で試験実施

在来種対応

外来種対応

R1(2019) キク科7種を選定  
オオハンゴンソウ、アメリカオニアザミ  
フランスギク、セイヨウタンポポ  
オオアワダチソウ、コウリタンポポ2種  
※赤字は工事前駆除を検討

R2(2020)  
緑化候補種選定試験実施

<草本>  
クサヨシ  
オオヨモギ  
アキタブキ  
<木本(低木)>  
ホザキシモツケ  
ホザキナナカマド

R1(2019)～ 外来種生育状況確認

R3(2021)  
緑化候補種賦存量調査から5種選定

R3(2021)  
アメリカオニアザミ駆除試験

R4(2022)  
緑化候補種現地播種試験実施中

R4.9.29WSで  
現地視察

R4(2022)  
オオハンゴンソウ駆除試験

R4(2022) 10月 岡村名誉教授から外来種植物対応についての助言



## 道路法面植生における専門家からの助言等について

### 【令和3年度WS開催時(令和4年3月24日)における確認事項】

- ・法面植生は非溶岩区間で在来種による吹付、溶岩区間については繊維ネット工を想定。
  - ・在来種は道路計画区間周辺に生育している植物を使用する場合、賦存量調査結果より、草本3種、木本(低木)2種 が候補種となる。
- ※ 必要量の確保及びエゾシカ食害の影響について要検討

### 【令和4年10月4日 現地視察での岡村名誉教授からの主な助言内容】

- ・道路法面の安定が最重要である。
- ・植生試験は斜面で実施した方が良い。
- ・道内在来種である野芝（以下『張芝(野芝)』という)の活用も良い。

### 【令和4年10月24日 打合せでの加賀屋座長・岡村名誉教授からの主な助言内容】

- ・道路法面の外来種対応について他地区での実施(成功)事例を探して参考とする。
- ・播種予定の5種だけではなく、現地に生育している他の種類(見栄えがする花を付ける植物等)を少なくても構わないので、導入することを検討する。その際、苗を植えることも検討する。
- ・植生試験では対象植物の植被率40～50%以上を目安とし、他の植物を含めて全体の植生状況から採用可否を判断する。

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

これまでの各試験結果や専門家などからの助言を踏まえた今後の考え方について

## 【目的】

- ・事業計画区間の法面が阿寒摩周国立公園内への外来種\*供給源となることを防ぐ

※ここで対象とする外来種とは侵略的外来種(特定外来生物を含む)を指す。

※侵略的外来種:外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、

生物多様性を脅かすおそれのあるもの。(環境省HPより抜粋)

## 【各試験結果から考えられる懸念事項】

- ・道路計画区間周辺で採取される在来種子量が少なく、使用できる法面積が限られる
- ・播種試験による在来種の生育が少なく、侵略的外来種が侵入しやすい状況となっている
- ・アメリカオニアザミは増加の状況にあり、現状での駆除も難しくなっている
- ・エゾシカによる食害により生育の妨げとなっている

## 【専門家などからの助言を踏まえた植生工法(侵略的外来種侵入抑制対応)について】

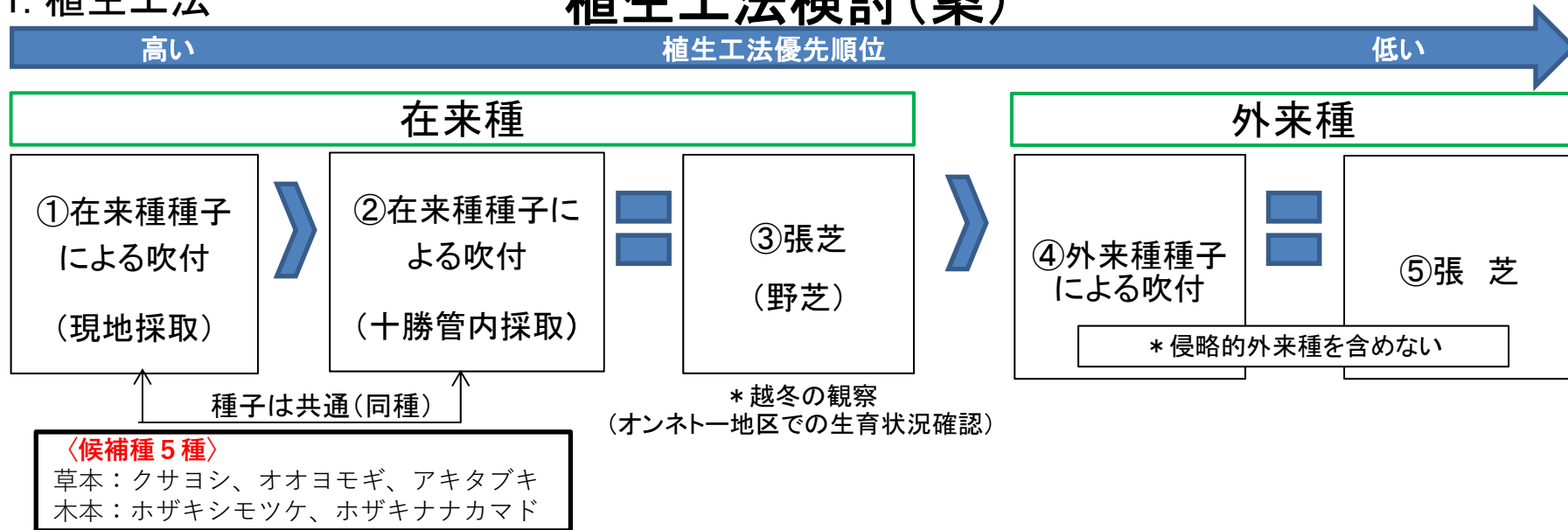
- ①現地で採取される在来種子により吹付を行う
- ②現地で採取される在来種子量が限られ、計画路線全体の法面植生を行うことが難しい場合は、十勝管内で候補種5種の種子を採取し吹付を行う
- ③張芝(野芝)により早期緑化を図る
- ④一般の工事などで使用実績の多い、外来種子(侵略的外来種ではない)による吹付を行う
- ⑤一般の工事などで使用実績の多い、張芝(侵略的外来種ではない)により早期緑化を図る

**！ 植生工法を5つに選定し、次の工法検討フロー(案)により決定していく！**

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

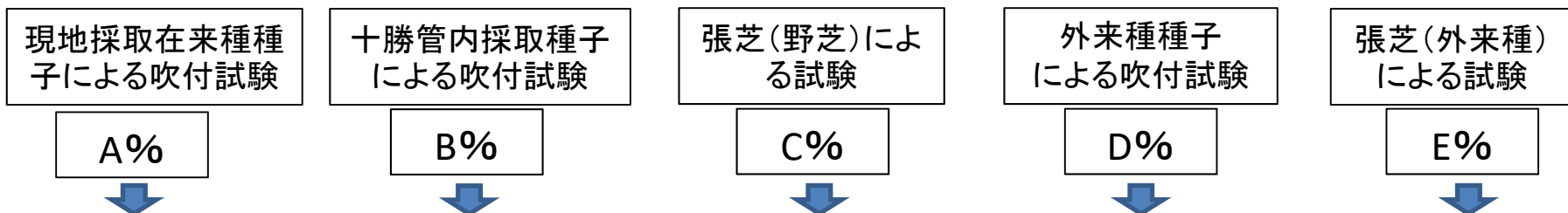
1. 植生工法

植生工法検討(案)



2. 試験内容(植被率の確認試験)

- ・試験場所は、現在の植生試験エリア(民地)を予定し、法面に近い斜面部にて実施する。
- ・試験面積は1カ所あたり約25㎡を予定し、試験箇所は5カ所とする。



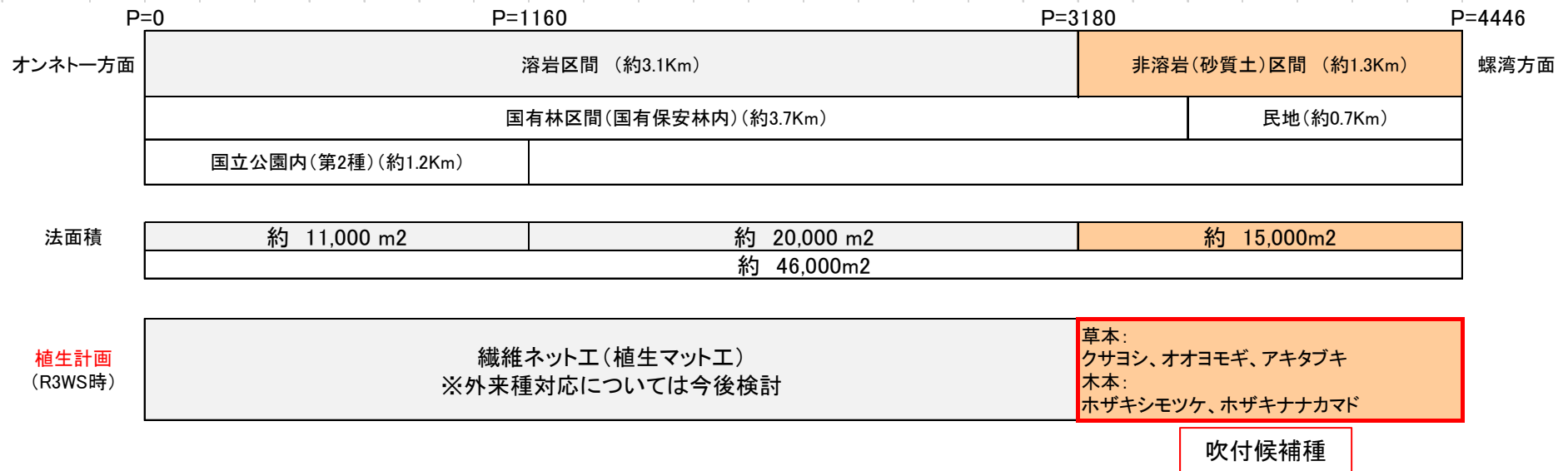
- ・判定時期は植生後おおむね1年後とし、植被率は40%~50%以上を目安とする。
  - ・判定には他の植物の植生状況なども含め、工法の選定を行う
- ※対象植物以外にも現地で確認されている植物の種子や苗を含めることも検討する

## 植生検討植被率表(案)

各種試験共通(現地調査票)	
項目	植被率(%)
1. 吹付種子(現地・十勝・外来)・野芝・張芝	
2. 侵入した在来種	
3. 侵入した外来種	
4. 侵入した侵略的外来種	
5. 裸地	

# 令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 事業計画区間(約4.4km)の地質区分



### 今後の道路法面植生検討

- 令和5年度(2023)  
植生工法検討(案)に示す5つの工法について試験を実施し、植被率などにより植生工法を選定する。
- 令和6年度(2024)  
選定された植生工法を使用する区間の選定などを行う。